

かたびら
帷子川水系河川整備計画

平成 26 年 12 月

神 奈 川 県

帷子川水系河川整備計画

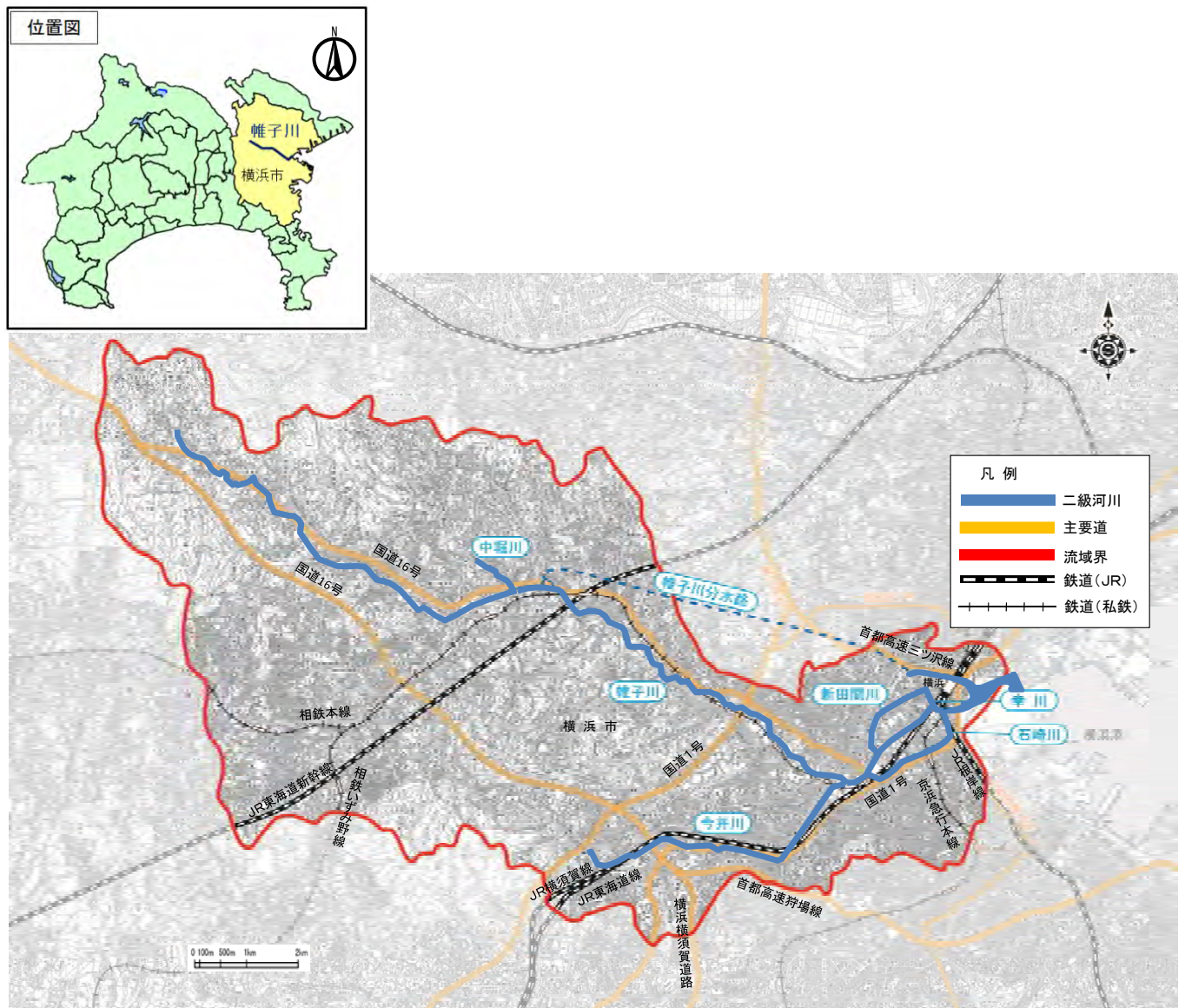
目 次

第1章	流域及び河川の概要	1
第1節	流域の概要	1
第2節	河川の概要	8
第2章	河川の現状と課題	14
第1節	洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	14
第2節	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	16
第3節	河川環境の整備と保全に関する事項	18
第3章	河川整備計画の目標に関する事項	19
第1節	計画対象区間	19
第2節	計画対象期間	19
第3節	洪水、高潮等による災害発生防止または軽減に関する事項	19
第4節	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	20
第5節	河川環境の整備と保全に関する事項	20
第4章	河川整備の実施に関する事項	21
第1節	河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	21
第2節	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	27
第3節	河川環境の整備と保全に関する事項	27
第4節	河川の維持の目的、種類及び施行の場所	28
第5章	その他	29
第1節	地域と連携した河川管理	29
第2節	河川愛護等の普及・啓発、取組みへの支援	29

第1章 流域及び河川の概要

第1節 流域の概要

帷子川は、横浜市旭区若葉台付近に源を発し、途中で中堀川、今井川等の支川を合流し、下流部では石崎川、新田間川等を分合流して横浜港へ注ぐ幹川流路延長約 17.3 km、流域面積約 57.9 km²の二級河川である。帷子川という名の由来は、一方が山に囲まれ、他方に田や野はらを控えていたため「片平」と言ったのではないかとの説がある。

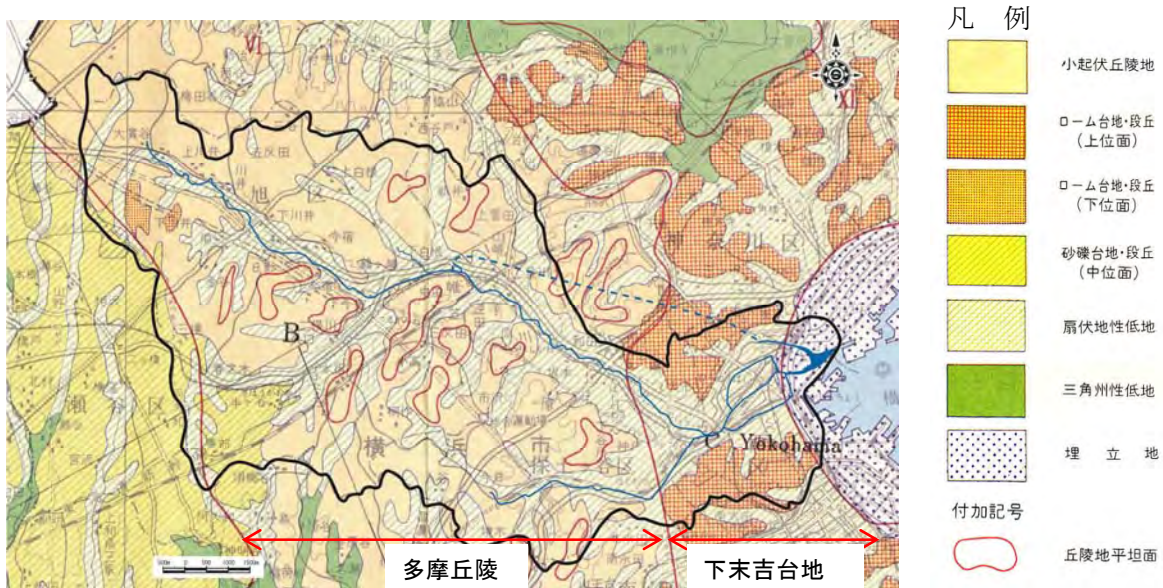


図－1 帷子川流域の概要

[地形・地質]

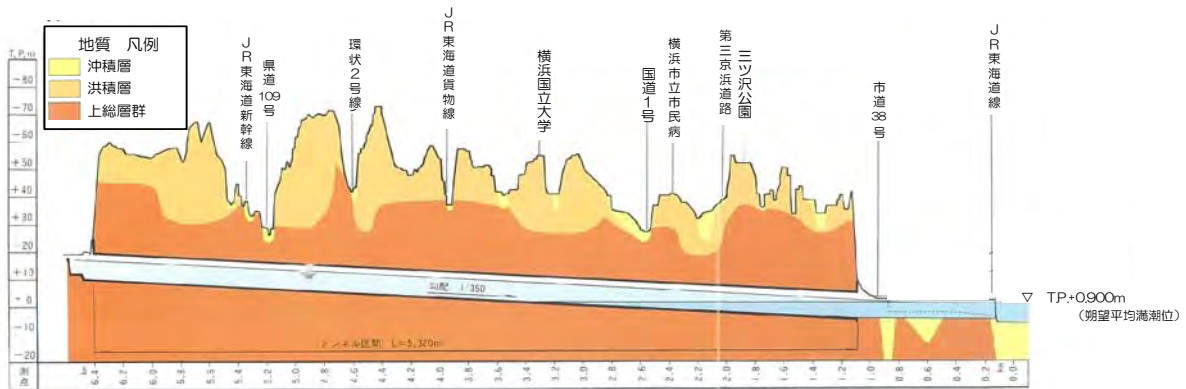
帷子川流域の地形は、西側より多摩丘陵、下末吉台地とこれらの丘陵・台地を帷子川及び帷子川の支谷によって刻まれた埋積谷・河岸段丘などで構成される。

また、帷子川流域付近の地質は、最下位層として、鮮新世～前期更新世の上総層群が全域的に分布しており、帷子川分水路は全てこの上総層群を掘削している。



出典：地形分類図（土地分類図（神奈川県）縮尺 1：100,000 昭和 50 年 監修：国土庁土地局国土調査課 発行：財団法人日本地図センター）

図－2 帷子川流域地形分類図



出典：帷子川分水路工事記念誌

図－3 帷子川分水路ルート地質縦断図

帷子川の平均河床勾配は、下流区間では1/2,000、中流区間では1/150~1/1,000、上流区間では1/250となっている。

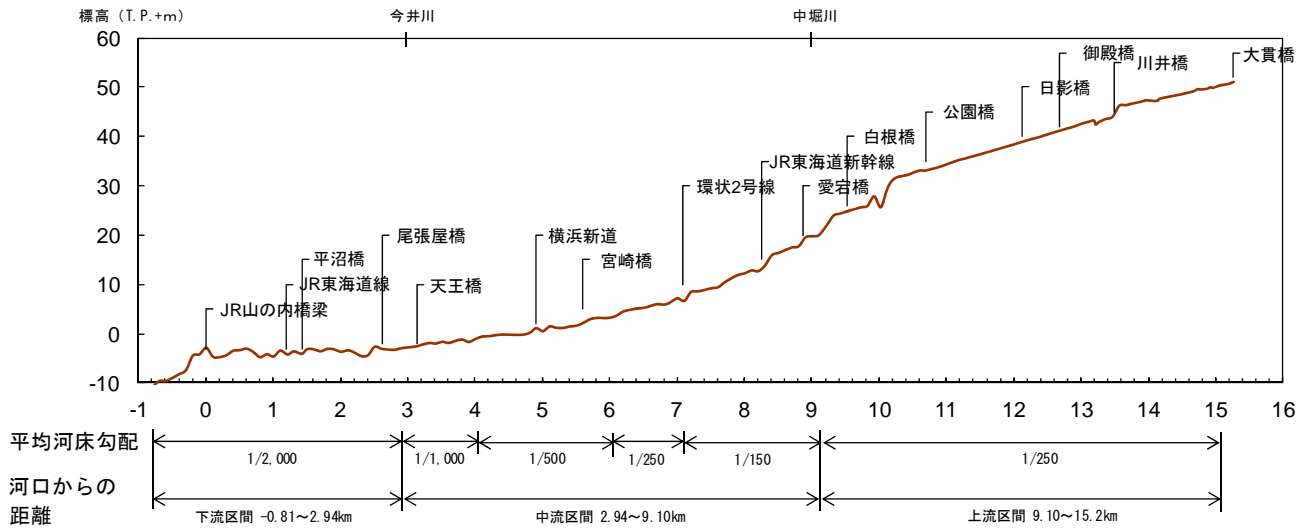
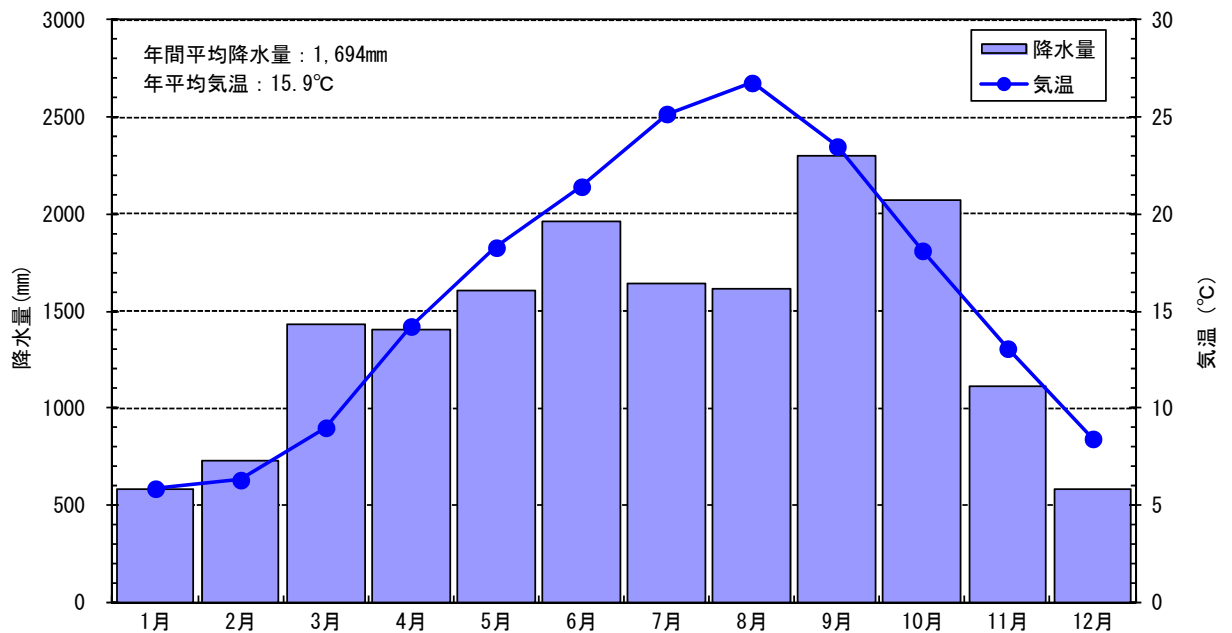


図-4 帷子川縦断面

[気 候]

流域の気候は、夏期は高温多湿、冬期は乾燥する太平洋側気候を示し、年平均気温が約16℃となっている。また、年間降水量は約1,700mmとなっている。



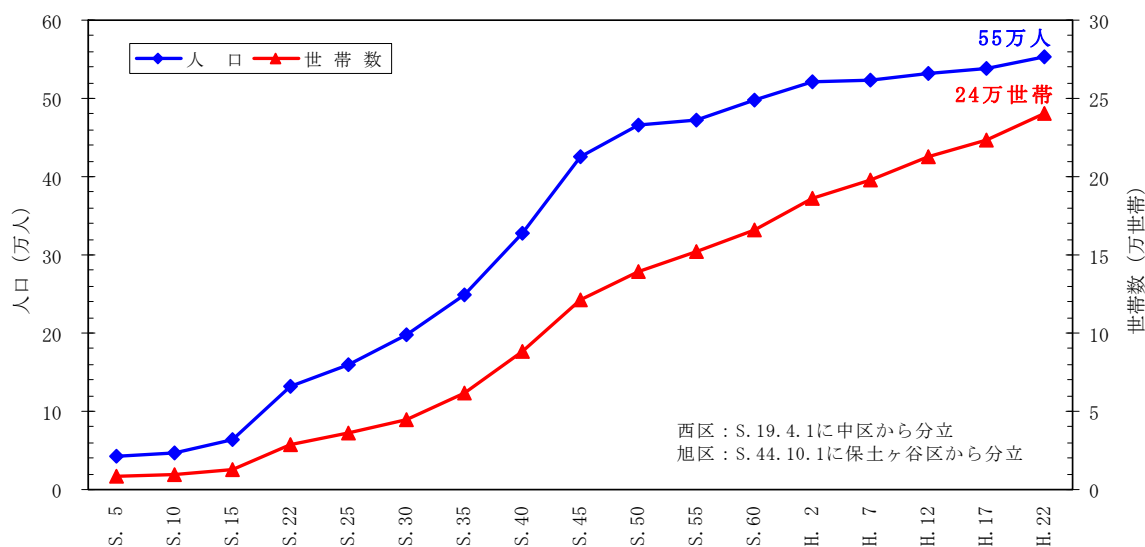
出典：気象庁 HP

図-5 流域の降水量・気温
(1983~2012年：近年30年間の横浜地方気象台の平均値)

[人 口]

帷子川流域は、横浜市西区、保土ヶ谷区及び旭区にまたがり(下流部で一部神奈川区を含む)、横浜市の発展とともに急激に人口が増えた地域である。

関連3区の人口は高度経済成長期において増加しており、平成に入って50万人に達している。



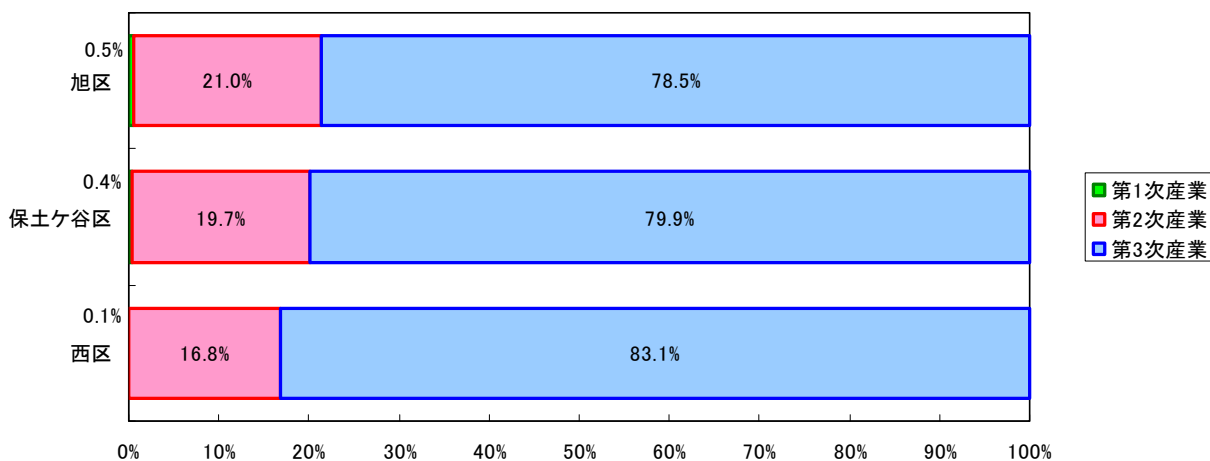
出典：横浜市統計ポータルサイト

図-6 関連区の人口推移 (西区、保土ヶ谷区、旭区合計)

[産 業]

帷子川流域の産業は、第3次産業が約8割を占めており、上流の旭区から保土ヶ谷区、西区と下流へ行くに従い、第3次産業の比率が多くなっている。

なお、西区は年間商品販売額が約1兆7,118億円で市内1位となっている。(平成19年商業統計調査横浜市結果報告)

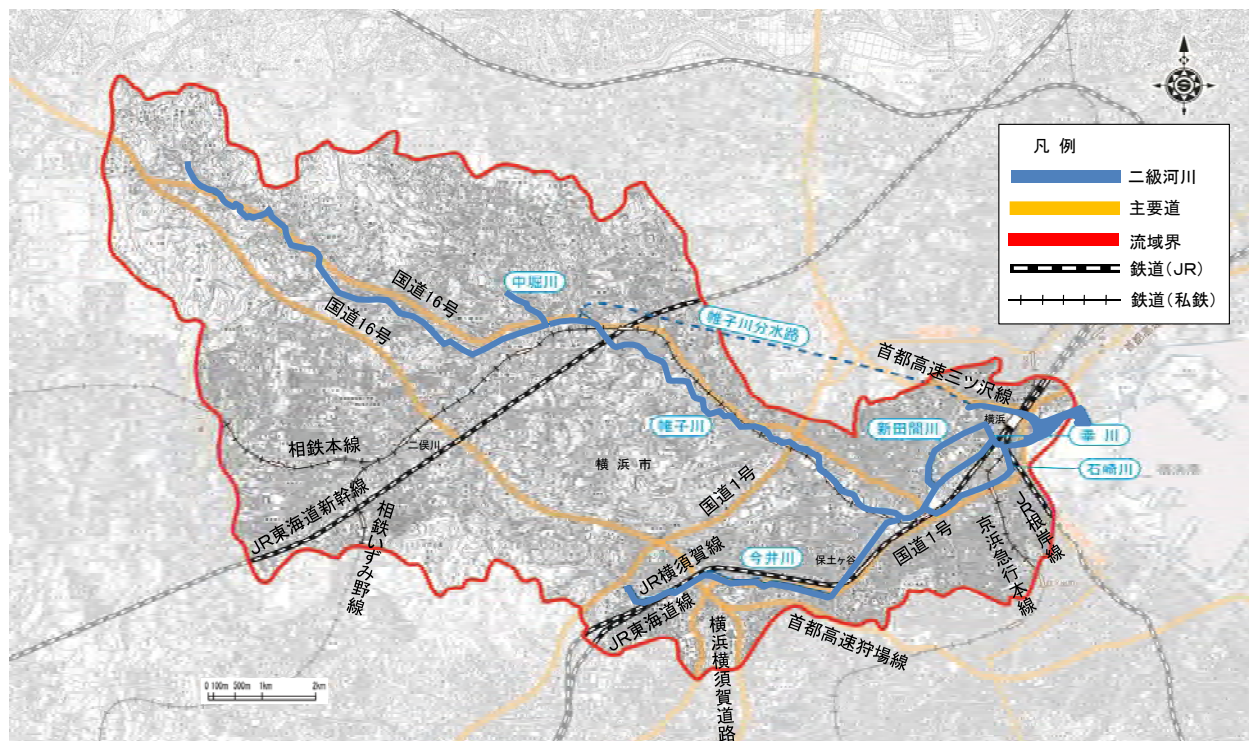


出典：横浜市統計ポータルサイト

図-7 西区、保土ヶ谷区、旭区の産業別就業者数の割合

[交 通]

流域では本川下流から中流に沿って相模鉄道が通り、本川下流、今井川に沿って JR 東海道線、JR 横須賀線などの鉄道が通っている。また、本川に沿って国道 16 号が通っており、河口部、中流部では国道 1 号が流域を横断している。



図－8 流域の交通

[河川の変遷など]

江戸時代末期の帷子川河口は現在の^{ひらぬまばし}平沼橋付近にあり、平沼や岡野町など一帯は、湿地や海であった。明治時代に入り新橋～横浜間に鉄道が敷かれたとき、^{あおきばし}青木橋付近から高島町の方へ海の中を築堤方式で通過したため、この一体は内海となったが、その後、明治 20 年代になって新田開発により埋立が行われ流路も整備された。大正 12 年の関東大震災は、横浜にも大きな被害をもたらしたが、現存している石積の護岸は、その震災復興事業で築造されたものである。また、沿川の商工業発展のため、水上運搬の便を目的とした派川の整備も行われた。

中流部では享保年間(1730 年代)に、拡幅や蛇行修正が行われた記録もあるが、当時の集落は比較的高いところにあり、田畑の冠水や流失被害が主であったとのことである。昭和 20 年代までの河川管理は、耕地のかんがいなどを目的として行われており、本格的な改修は実施されていなかった。

[土地利用]

昭和 30 年代になり帷子川周辺地域の市街化が急速に進み、昭和 35 年以後の市街地面積は、図-9のように急激に増大し、将来(現在の市街化区域が全て市街化された時点)においては、83%を予想している。

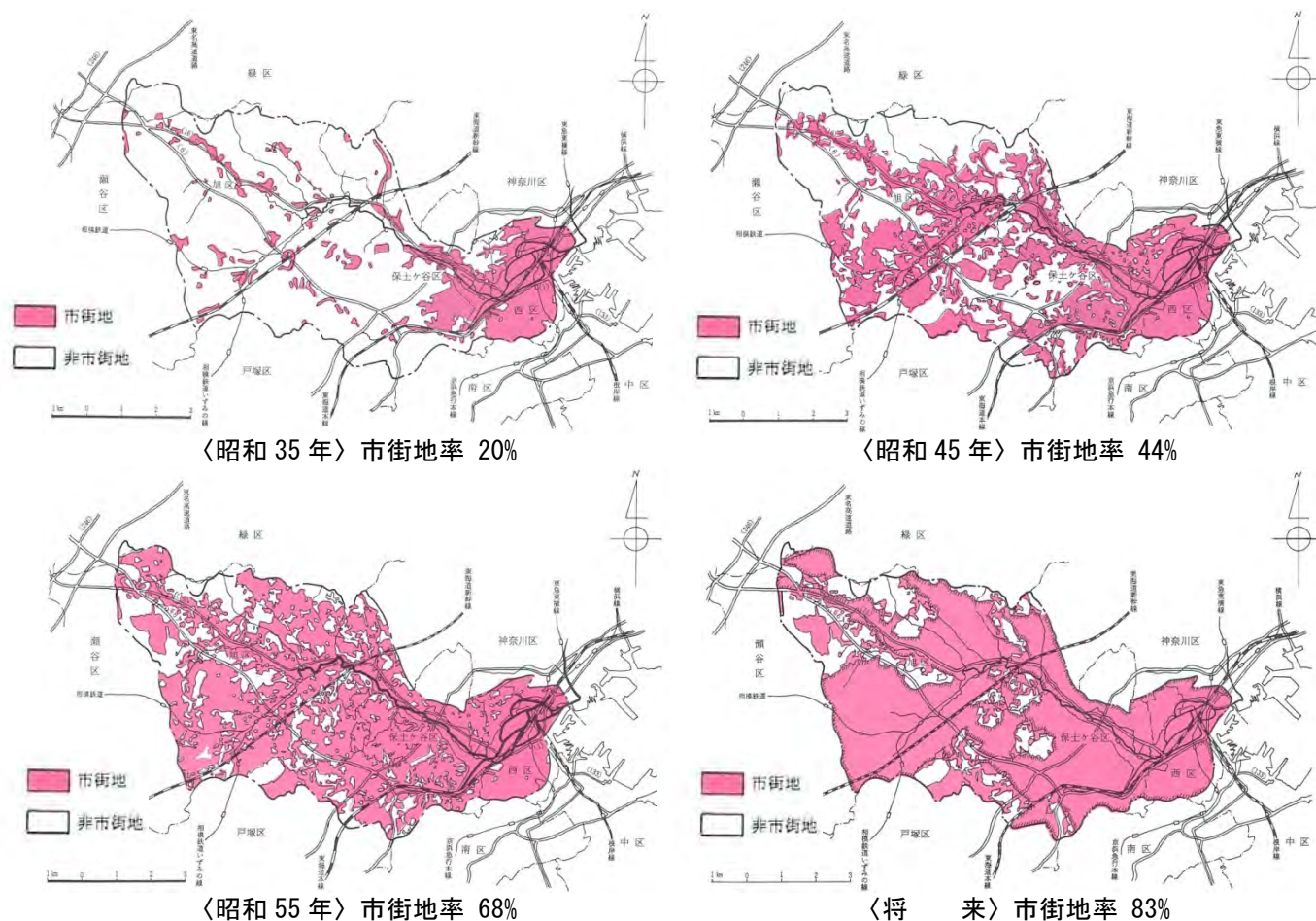


図-9 帷子川流域の市街地進展状況

[歴史・文化財]

帷子川の河口付近は明治時代に埋め立てられたこともあり、歴史的な遺跡や神社仏閣等は少ない。中流部では帷子川とほぼ平行して、北側を「旧八王子街道」、南側を「旧相州道」が位置し、旧東海道と結ばれていた。このような歴史的背景から帷子川に沿った地区には数々の史跡、神社仏閣等が残されており、旧帷子橋跡は横浜市の登録文化財となっている。中堀川合流点上流付近の帷子川や中堀川の沿川地区には^{はたけやまじげただ}畠山重忠古戦場跡や^{しらねふどう}白根不動等の横浜市登録文化財のほか鎌倉時代にゆかりの深い、数々の名所、史跡が残っている。



図-10 帷子川流域の主な文化財

第2節 河川の概要

帷子川は、昭和40年に河口から^{しもかわぼし}下川橋までの区間が二級河川に指定された。その後、浸水被害が頻発し、本格的な改修工事が必要とされたため、昭和46年に本川の二級河川区間を上流の^{おおぬきぼし}大貫橋まで延伸し、同時に支川の中堀川及び今井川が二級河川に指定された。

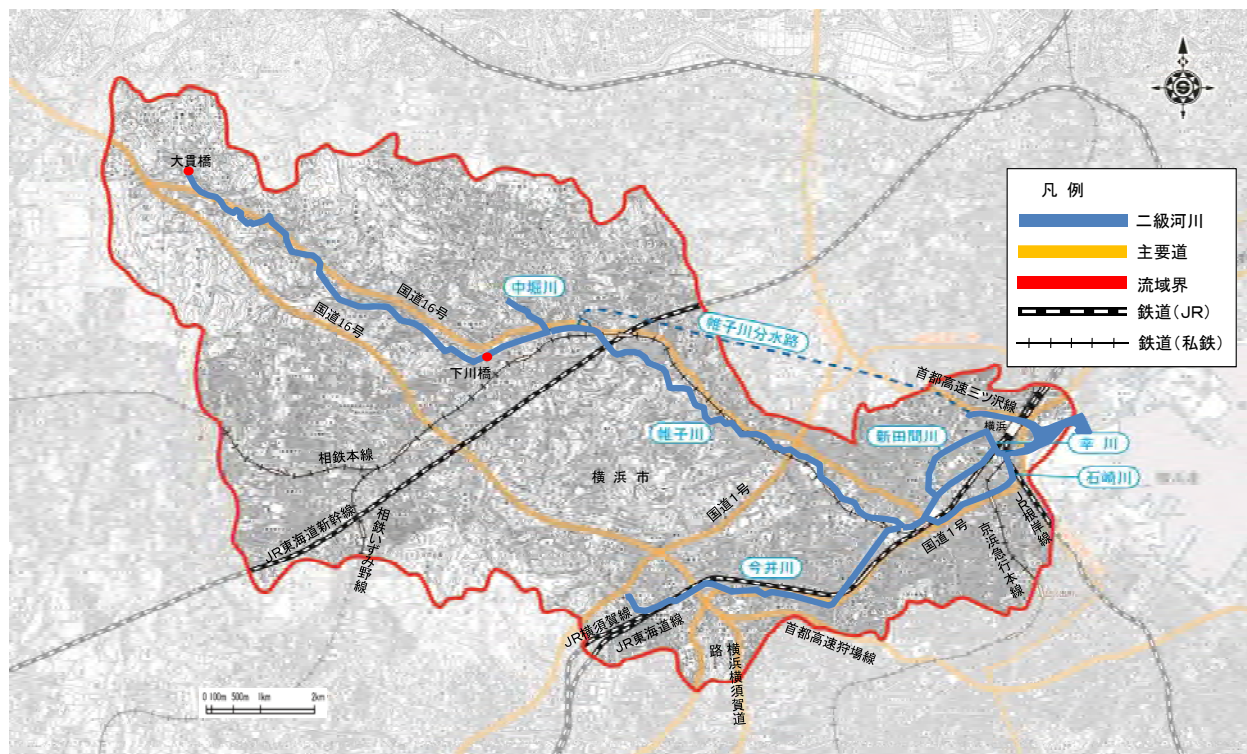


図-11 河川位置図

表-1 帷子川水系 二級河川一覧

河川名	区 間				延長 (km)	
	上流端			下流端		
帷子川水系	帷子川	左岸	横浜市旭区上川井町 453 番地地先	に設置した 標柱	海	17.34
		右岸	同 259 番地地先			
	今井川	左岸	横浜市保土ヶ谷区今井町 42 番地地先	に設置した 標柱	帷子川 合流点	5.59
		右岸	同 1,340 番地地先			
	中堀川	左岸	横浜市旭区白根町 554 番地の 2 地先	の齊藤橋上 流端	帷子川 合流点	0.85
		右岸	同 441 番地の 2 地先			
	石崎川	左岸	横浜市西区西平沼町 4 丁目 27 番地地先	の帷子川分 派点	帷子川 合流点	1.60
		右岸	同 5 丁目 29 番地地先			
	新田間川	左岸	横浜市西区南浅間町 2 番地地先	の帷子川分 派点	幸川 合流点	1.41
		右岸	同 岡野町 2 丁目 29 番地地先			
	帷子川 分水路	左岸	横浜市旭区白根 1 丁目 188 番 1 及び 188 番 5 地先	の帷子川分 派点	帷子川 合流点	6.61
		右岸	同 西川島町 4 番 3 地先			
	幸 川	左岸	横浜市西区南幸町 1 丁目 5 番地地先	新田間川 合流点	帷子川 合流点	0.30
		右岸	同 2 丁目 20 番地地先			

帷子川

○ 下流域：河口～今井川合流点

下流域は、横浜市西区を流れ、派川である石崎川、新田間川、幸川^{さいわいがわ}を分合流したのち、帷子川分水路^{かたびらがわぶんすいろう}を合流して河口に達している。

沿川の大部分は商業系用途地域に指定されており、一部は密集市街地となっている。また、下流域は高潮対策区間であり、河道は鋼管矢板を基礎とした特殊堤が整備されている。



横浜駅西口付近



沼野橋 下流

○ 中流域：今井川合流点～中堀川合流点

中流域は、横浜市保土ヶ谷区を流れ、沿川は密集市街地となっており、共同住宅の立地も進んでいる。護岸はブロック積護岸であり、川幅は12～24m程度である。この区間の河床は、上流側は岩盤であるが、下流側は砂または砂利で、瀬と淵が形成され砂利の堆積も見られる。川辺町、川島町には親水護岸が整備されており、人と川とのふれあいの場として、地域の人々に親しまれている。



天王橋 上流



鷺山橋 上流

○上流域：中堀川合流点～大貫橋

上流域は、横浜市旭区を流れ、河道改修は吹上橋上流まで進んでいるが、それより上流部は未改修となっている。改修済み区間はブロック積護岸で、河床は砂または砂利となっている。未改修区間は激しく蛇行しており、川幅は改修区間の半分程度となっている。改修済み区間では、蛇行していた旧川跡地の多くが公園等に整備されており、中でも中堀川合流点上流から鶴舞橋の約600mは、面積約15,000m²の帷子川親水緑道として整備され、住民の憩いの場となっている。



今川橋 上流



上川井町付近（未改修区間）

今井川

今井川は保土ヶ谷区今井町の山々に源を発し、保土ヶ谷区岩間町1丁目で帷子川に合流する。JR 東海道線より下流の区間は密集市街地を流下しているため、沿川に住宅が近接しているが、兩岸に管理用通路は確保されている。これより上流は谷戸を流下しているが、河川兩岸の斜面は開発され住宅が密集している。また、下流域において幾度も大きな浸水被害が発生していたため、治水効果を早期に発揮する施設として、近接する国道1号の地下にトンネル式の地下調節池を計画し、平成16年に完成している。



中野橋 下流



今井橋（今井町） 下流（未改修区間）

中堀川

中堀川は旭区上白根付近の源流部から南下して、同白根2丁目で帷子川に合流する。上流には、一部市街化調整区域に指定されている地域もあるが、斉藤橋から帷子川合流点の 850m は市街地となっており、沿川まで住宅が近接している。旭区白根地区の緑豊かな空間と自然景観を保全するため、390mのバイパストンネルが整備されている。また、同地区の白糸の滝は、長期間の浸食により斜路となっていたが、魅力的な親水空間として整備され、平成3年度に修復された。



愛宕白根橋 上流



バイパストンネル出口

石崎川

石崎川は、西区西平沼町で帷子川から分派し、同平沼1丁目で帷子川に合流する 1.6km の派川で、沿川は事業所、住宅が密接している。もともとは江戸中期新田開発の際の用水路で、関東大震災後、帷子川と合流され、帷子川水運の一つの運河として利用されていた歴史があり、今も運河だった頃の石積み護岸が残っている。全川が感潮区間であり、沿川には桜並木を中心とした石崎川プロムナードが整備されている。京浜急行線下流右岸には石崎川公園が整備されている。



浅山橋 上流



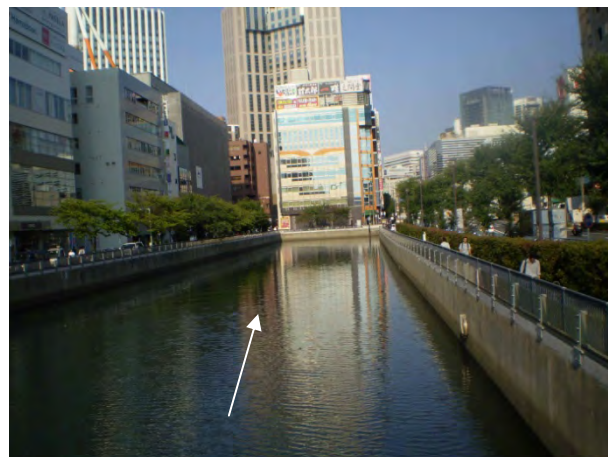
要橋 上流

新田間川

新田間川は、西区南浅間町、岡野2丁目で帷子川から分派し、内海橋で幸川となり帷子川に合流する約 1.4km の派川である。従前は二次派川の派新田間川に流入していたが、帷子川分水路建設に伴い派新田間川は埋め立てられ、現在の姿となっている。新田間川も石崎川同様、江戸時代の新田開発のための用水路で、現在も運河としての面影が残っている。全川が感潮区間で、沿川は事業所、住宅が密集しているが遊歩道は整備されている。



浅岡橋 下流



一之橋 下流

帷子川分水路

帷子川分水路は、帷子川中流部、横浜市旭区白根1丁目付近の分水施設で $350\text{m}^3/\text{s}$ の流量を分水し、国道 16 号下白根橋下流からトンネル(延長約 5.3km)で、横浜駅西口付近(西区楠木町)の旧派新田間川に接続し、帷子川本川に合流する延長約 6.6km の分水施設として平成9年に完成した。洪水時以外通水はなく、開水路区間は全川が感潮区間で、河川上空は首都高速三ツ沢線が通っている。



分水路取水庭



西鶴屋橋 下流

幸川

幸川は、派川新田間川の下流内海橋から帷子川合流点まで300mの派川で、横浜駅西口に位置するため、沿川は事業所が密集している。



南幸橋 上流



南幸橋

第2章 河川の現状と課題

第1節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

〔 水害の発生状況 〕

帷子川における近年の主な水害は、昭和 57 年9月の台風 18 号、平成2年9月の台風 20 号、平成 13 年7月の雷雨、平成 16 年 10 月の台風 22 号等により発生している。



昭和 57 年の浸水状況（保土ヶ谷区）

平成 16 年の浸水状況（西区）

写真－1 出水状況写真

表－2 帷子川水系の主な水害実績

発生年月日	原因	降雨量* (mm)		浸水被害 (戸)		浸水面積 (ha)
		最大時間雨量	最大日雨量	床上浸水戸数	床下浸水戸数	
昭和 33 年 9 月 26 日	台風 22 号	39.1	287.2	2,851	1,803	床上 78 床下 105
昭和 36 年 6 月 26 日 ～29 日	集中豪雨	58.2	213.4	354	684	床上 14 床下 75
昭和 49 年 7 月 8 日	集中豪雨	42.6	107.0	353	1,211	床上 19 床下 63
昭和 54 年 9 月 21 日	台風 20 号 の高潮	16.5	89.0	431	159	床上 21 床下 14
昭和 57 年 9 月 11 日	台風 18 号	50.0	189.0	210	722	床上・下 計 25
平成 2 年 9 月 30 日 ～10 月 1 日	台風 20 号	48.0	194.0	347	115	床上・下 計 20
平成 13 年 7 月 25 日	雷 雨	44.0	45.5	7	52	
平成 16 年 10 月 8 日 ～10 日	台風 22 号	30.5 (73.0)	191.5 (312.0)	250	116	

* 降雨量は横浜地方気象台

出典:「帷子川分水路建設工事記念誌 神奈川県 横浜市」

「平成 13 年 横浜市の災害 横浜市総務局災害対策室」より集計

「平成 16 年 横浜市の災害 横浜市総務局危機管理対策室」より集計

平成 16 年の台風 22 号の()内雨量は分水路分派点下流の保土ヶ谷消防署西谷出張所の値

〔治水事業の沿革〕

帷子川は昭和33年の台風22号により大災害を受け、これを契機に和田橋～川島橋間3.7kmを災害復旧助成事業(昭和33～37年)で改修したのをはじめ、昭和34年には電線橋～学校橋(川島町)間5.7kmの改修に着手した。また、昭和36年の集中豪雨を契機に、鶴舞橋～下川橋間0.8kmや川島橋～鶴舞橋間3.0kmの改修を実施した。昭和45年度から中堀川合流点上流に都市小河川改修事業を導入し、横浜市が施行している。昭和48年度から下流部において高潮対策事業が開始され、同54年10月の災害により同事業の一部が激甚災害対策特別緊急事業にも採択されたため、改修の促進が図られることとなった。学校橋(川島町)～中堀川合流点間1.2kmについては、昭和51年度からショートカットの改修が開始され、同56年度で概成をみることとなった。さらに、愛宕橋下流の川島町付近で、 $350\text{m}^3/\text{s}$ を調節する分水路が平成9年に完成している。

また、今井川では多発する洪水被害に対して、治水効果を早期に発揮する施設として、今井川地下調節池が平成16年に完成している。

〔河川整備の状況〕

帷子川の中堀川合流点下流の区間では、年超過確率1/50規模の降雨に対応できるよう河道改修を実施している。護岸整備は概ね完了しているが、河床掘削が必要な状況にあり、これに伴う護岸の根継ぎも実施していく必要がある。河口部については右岸旧高島ヤードの河道拡幅事業等を実施中である。堤防に関しては、下流高潮区間の内、平沼橋下流区間では暫定整備、平沼橋上流区間では計画堤防高で整備が完了しており、高潮区間上流では、常盤橋下流区間、川島橋～鷺山橋、学校橋(川島町)上流区間で堤防整備が完了している。中堀川合流点上流区間では年超過確率1/6.3の規模の降雨に対応できるよう河道改修を実施中であり、現在、吹上橋上流付近まで完了している。

また、中堀川、今井川は年超過確率1/6.3の規模の降雨に対応できるよう河道改修を実施中で、中堀川は不動橋付近を除き完了しており、今井川は現在改修中である。JR岩間川橋梁及び保土ヶ谷橋付近を除き、元町橋下流付近まで河道改修が完了している。

なお、帷子川上流区間(中堀川合流点より上流)及び中堀川、今井川は、河川法第16条の3に基づく協議により横浜市が河川工事及び維持を実施している。

第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

[利 水]

帷子川水系では水利権の設定はない。ただし、横浜市消防局による消防水利(占有許可)がある。

[水 量]

宮崎橋地点における過去9年(平成11～19年)の平均濁水流量は約 $0.66\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は約 $1.26\text{m}^3/\text{s}$ である。

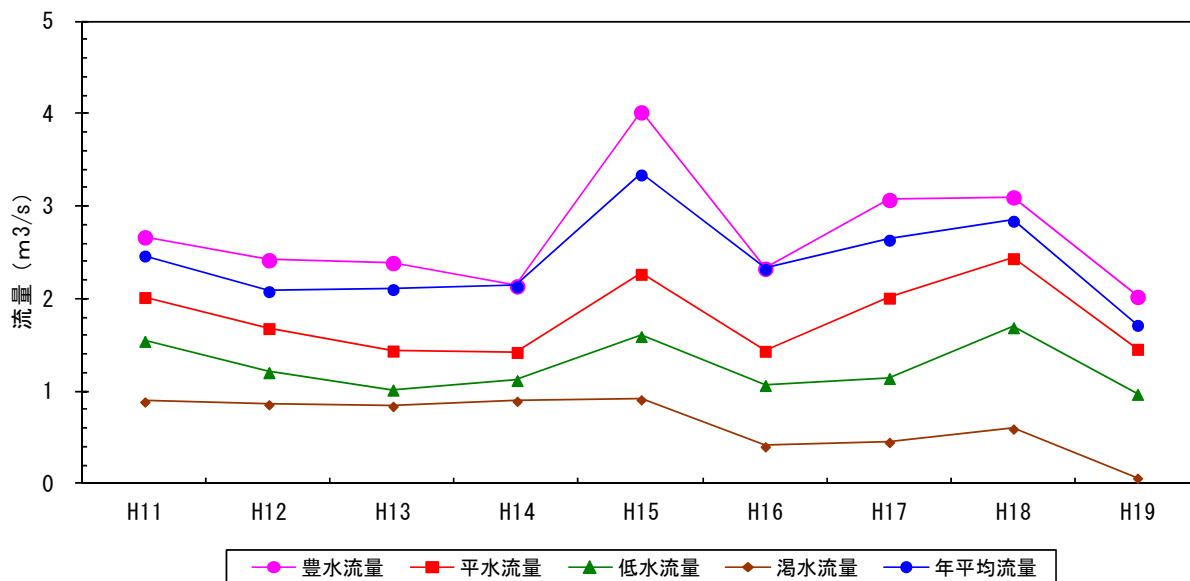


図-12 宮崎橋地点の流況

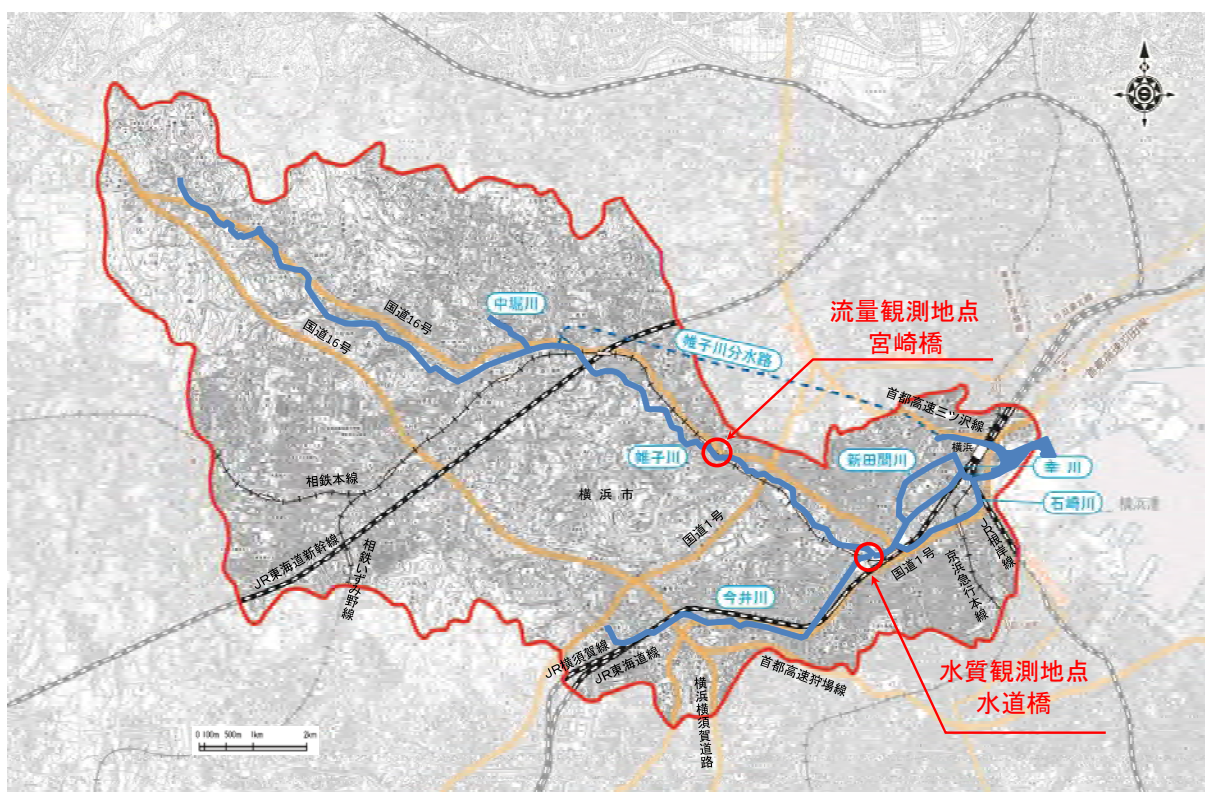
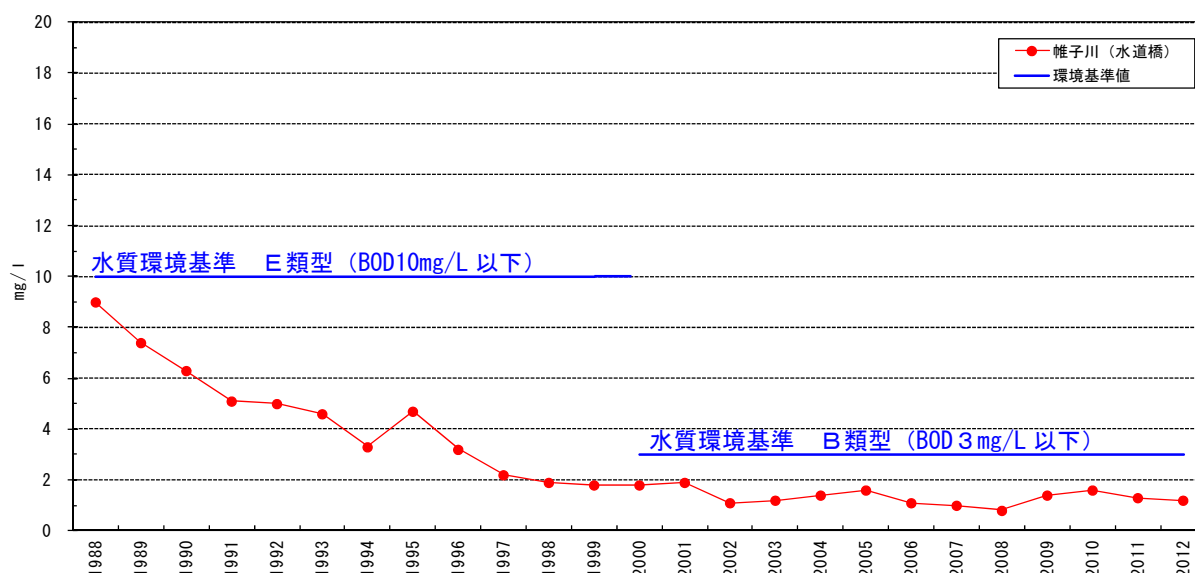


図-13 流量・水質観測地点位置図

[水 質]

帷子川の水質は、昭和 40 年代、工場廃水及び流域の都市化による生活排水の増大で最悪の状態となっていた。工場廃水については、昭和 46 年水質汚濁防止法施行に伴って、昭和 51 年頃までに公害対策が順次進み、生活排水については、公共下水道の整備に長期間を要したが、現在では下水道普及率が西区で 100%、保土ヶ谷区、旭区で 99%となるに至り、近年は水質改善の傾向が顕著となっている。これにより、平成 12 年度には、水質環境基準の類型指定が E 類型 (BOD10mg/L 以下) から B 類型 (BOD3mg/L 以下) に変更されるまでに至った。



出典：横浜市環境監視センターHP

図-14 帷子川水系 BOD75%値の経年変化

[河川利用]

川沿いは日々の生活や散策に利用されている区間が多く、遊歩道や緑道として整備されている区間もある。

親水空間として整備され、水辺に近づくことができる箇所は、川遊びや自然観察の場として利用されている



帷子川 川辺町親水護岸



石崎川プロムナード

写真-2 親水護岸・プロムナード箇所写真

第3節 河川環境の整備と保全に関する事項

[動植物の生息状況]

帷子川水系は一般に砂州の発達が少なく、水辺植生はいずれもごく小面積のものが点在するにすぎない。また、河川勾配が急であるため、水辺の州は砂礫質のものが主体で、水辺植生は概ねオオクサキビーオオイヌタデ群落、ヒロハハウキギク群落などの砂質土に多い一年草群落で占められている。なお、比較的広い砂州が見られるのは和田橋付近で、オオクサキビーオオイヌタデ群落の発達した植分が生育する。また、各支流を特徴づける植生があり、中堀川はオランダガラシ群落、ヤナギタデ植分など貧栄養地に多い植生で特徴づけられる。

帷子川の魚類は、昭和59年から平成2年頃まで源流部でアブラハヤ、シマドジョウ、ホトケドジョウが確認されていたが、中流部ではコイ、ヨシノボリ属だけで確認種数が少なかった。下水道普及等により水質が改善された平成5年には、アユ、ハゼ科等の通し回遊魚が確認されるようになった。平成23年の調査で確認された種類は7科22種、その内、通し回遊魚が約40%を占めている。河川の生物多様性を保全し、人為的な影響を少なくして再生していくためには、通し回遊魚の存在は大きい。

帷子川水系は市街地を流れる中小河川で、河川植生も小規模であり水辺鳥、水鳥類が生活の場を確保するにはまだ不十分と思われる。そのため、調査で確認された種類数も鶴見川、境川水系の半数程度である。

今後も自然環境等に配慮した川づくりを進めていく必要がある。

帷子川水系の自然環境

鳥類	植物	魚類	底生動物
<ul style="list-style-type: none"> ・アオジ ・イカルチドリ ・ハイタカ ・ツバメ ・コチドリ ・カワウ ・ゴイサギ ・コサギ ・アオサギ ・ダイサギ ・マガモ ・カルガモ ・コガモ ・ヒドリガモ ・ヨシガモ ・オナガガモ ・ホシハジロ ・トビ ・チョウゲンボウ ・コジュケイ ・シギ科 ・ウミネコ ・セグロカモメ ・ユリカモメ ・キジバト ・ドバト 	<ul style="list-style-type: none"> ・オオクサキビーオオイヌタデ群落 ・ヒロハハウキギク植分 ・ジュズダマ群落(植分) ・アメリカセンダングサ植分 ・オオボタクサ群落(植分) ・ミゾソバ群落(植分) ・セイタカアワダチソウ群落(植分) ・タノアシ-メレンゲヤツリ群落(植分) ・イヌビエ植分 ・アキノシゲ-カムゲラ群落(植分) ・オランダガラシ植分 ・コガマ群落 ・ヤナギタデ植分 ・コセンダングサ植分 ・セリ植分 ・ツユクサ植分 ・タネツケバナ植分 ・イヌタデ植分 ・イヌホオズキ群落 ・ヨモギ植分 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ ・メダカ※ ・ギバチ※※ ・ウグイ ・シマドジョウ ・スミウキゴリ ・ゴクラクハゼ ・アブラハヤ ・コイ※ ・ウナギ ・ギンブナ ・オイカワ ・モツゴ ・タモロコ ・ドジョウ ・アユ ・コトヒキ ・ウキゴリ ・マハゼ ・トウヨシノボリ ・グッピー 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガガンボ科 ・モンユスリカ亜科 ・ブリリア属 ・エリユスリカ亜科 ・ユスリカ亜科 ・コガタシマトビケラ属 ・ウルマーシマトビケラ ・イトミズ科 ・ミズミズ科 ・ミズムシ ・アゴナガヨコエビ科 ・テナガエビ ・シロハラコカゲロウ ・ウスバヒメガガンボ属 ・オウギゴカイ ・テナガエビ属 ・テナガエビ ・クロベンケイガニ 等



ミゾソバ



タノアシ



ホトケドジョウ



ギバチ

神奈川県レッドデータブック記載
 ※移入種の可能性があるもの
 ※※国内外来種
 外来種

出典：横浜の川と海の生物（第13報・河川編）
よこはまの川の魚たち
よこはまの水辺の植物たち

図-15 帷子川水系の自然環境

第3章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 計画対象区間

本河川整備計画の対象区間は、帷子川水系の二級河川区間(法指定区間)の全ての区間である。

第2節 計画対象期間

本河川整備計画の目標を達成するための対象期間は、概ね30年とする。

なお、本計画は、流域の社会状況の変化や新たな知見、技術の進歩等により、計画期間内においても必要な見直しを行うものとする。

第3節 洪水、高潮等による災害発生防止または軽減に関する事項

1. 洪水を安全に流下させるための対応

帷子川の中下流区間(中堀川合流点～河口)、石崎川、新田間川、幸川、今井川下流部(今井橋(岩井町)～帷子川合流点)及び帷子川分水路*は、年超過確率 1/50 の規模の洪水を安全に流下させることを目標として整備を進める。

帷子川の上流区間(上流端～中堀川合流点)及び中堀川、今井川中上流部(上流端～今井橋(岩井町))は、年超過確率 1/10 の規模の洪水を安全に流下させることを目標として整備を進める。なお、帷子川の上流区間、中堀川及び今井川については、現在進めている年超過確率 1/6.3 の規模の洪水を安全に流下させることを目標とした整備を早期に完了させ、引き続き年超過確率 1/50 や年超過確率 1/10 の規模の洪水を安全に流下させることを目標とした整備を進める。

下流部の横浜駅周辺地区については、「エキサイトよこはま22(横浜駅周辺大改造計画)」による、河川、下水道、まちづくりが連携した浸水対策を進める。

ただし、整備の目標を超える規模の洪水が発生した場合は、被害発生の危険性は避けられないため、関係機関や地域住民と連携し、被害の軽減に向けた取り組みを進める。

※ 河川整備基本方針の目標である年超過確率 1/100 規模の洪水に対しては、分水路の流量配分は本計画のままとし、本川を再整備することで対応する。

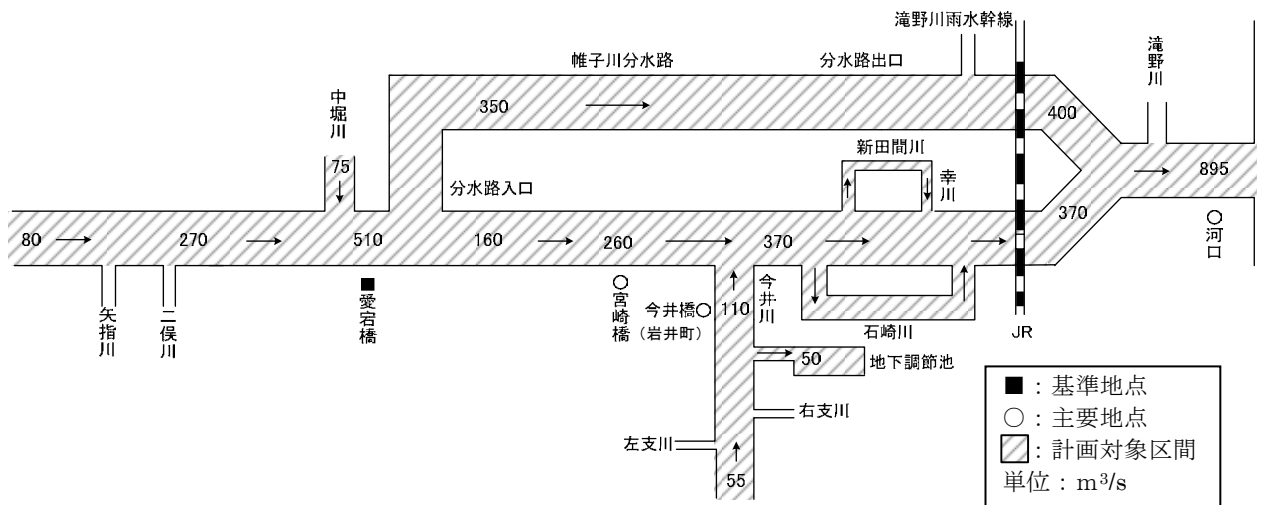


図-16 整備目標流量

2. 高潮、地震・津波への対応

河口部の高潮区間では、満潮時に伊勢湾台風規模の台風が襲来した場合に生じる高潮(T.P.+2.3m)に対応できるよう整備を進め、地震により重大な被害が発生しないようにするため、堤防・護岸等の河川管理施設の耐震性を高める対策を進める。

また、津波の影響について検討を進める。

3. 老朽化への対応

老朽化により機能の低下が懸念される施設については、施設の長寿命化を図るとともに、計画的に補修、更新等を実施し機能を維持する。これにより、老朽化による機能低下に伴う浸水被害を未然に防ぐ。

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

帷子川水系の本川、派川、支川は都市域における貴重なオープンスペースとなっており、今後も地域社会とともに自然環境の保全や流域の歴史、風土、慣習を尊重し、河川の適正な利用を図ることとする。

下流の感潮区間を除く本川、支川では必ずしも流況はよくないが、水利権の設定もなく、現状において大きな渇水被害は受けていない。しかし、降雨のみに頼る流域であるため、有限な資源である水の有効活用を図り、水の適正な管理に努めることとする。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、流量等のデータの蓄積に努め、検討を進める。

第5節 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、水質の保全、人と川とのふれあい、河川工事における周辺の自然環境との調和や生物の生息環境の保全に配慮するなど、河川環境に配慮した河川の整備を目指す。

帷子川は都市域での貴重な自然環境ならびにオープンスペースであることから、河川事業の実施に当たっては、河川の特長や地域の環境に配慮し、自然環境の保全・再生を進めるとともに、地域住民が川と親しむことができる水辺空間の形成に留意した整備を図る。

また、治水機能を確保した上で、過去の河川の姿や現在の生物の生息状況を把握したうえで、良好な水質を活かし、自然環境の保全と人と川のふれあいの場となるよう親水性に配慮した河道や護岸の整備に努める。

帷子川の川づくりは、流域の歴史・文化を踏まえ、魅力的で活力あふれる地域づくりの軸となる帷子川とするため、沿川の関係機関が立案する地域計画等との連携・調整を図りつつ、地域住民や関係機関等との協働による河川整備の推進に努める。また、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供することにより、河川と流域住民との連携を積極的に図り、河川愛護思想の啓発と定着、NPO や地域住民の参加による川づくりの推進に努める。

さらに、下流部の横浜駅周辺地区については、横浜市の進める「エキサイトよこはま 22(横浜駅周辺大改造計画)」と連携し、水辺周辺の再開発に合わせた特色ある水辺空間づくりを進めていく。

第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

河川工事は、河川整備計画の対象期間内に整備目標流量を安全に流下させるために、河道整備を進める。

なお、河道整備は多自然川づくりを基本とし、河川工事の実施にあたっては、河川に生息する多様な生物の生息、生育、繁殖環境や、景観に配慮した整備を行う。

1. 神奈川県施行区間

表－3 神奈川県施行区間の主な施行箇所

河川名	種別	施行箇所	図No.
帷子川	河道整備 護岸工、河床掘削工、橋梁対策等 橋梁架け替え 耐震対策	河口～中堀川合流点	①
石崎川	河道整備 護岸工、河床掘削工、橋梁対策等 耐震対策	全川	②
新田間川・幸川	耐震対策	南幸橋下流両岸他	③
帷子川分水路	長寿命化対策 河床掘削工	水門、堰 本川合流点～分水路トンネル出口	④

※分水路に架かる鶴屋橋は横浜市により別途、架け替えを実施

(1) 河道整備

整備目標流量を計画高水位以下で安全に流下させるため、護岸工や河床掘削工等を行い、河道の断面を広げる。この際、橋梁部分については、必要に応じて河床掘削が可能となるよう橋梁対策を実施する。また、河口部においては、右岸を掘削し河道拡幅を図る。

さらに、下流の高潮区間においては、高潮堤を整備し、計画高潮位に対する安全を確保する。

(2) 橋梁架け替え

河道整備に伴う橋梁の架け替えを実施し、洪水疎通能力の向上を図る。

(3) 耐震対策

河川管理施設の耐震対策を実施し、地震による被害の発生を防ぐ。

(4) 長寿命化対策

帷子川分水路は平成9年に完成し、整備計画期間(概ね30年)において、建設から約50年を迎え、老朽化による機能低下が懸念されることから、「帷子川分水路長寿命化計画」に基づき、施設の更新等適切な措置を講じる。

2. 横浜市施行区間

表－4 横浜市施行区間の主な施行箇所

河川名	種 別	施行箇所	図No.
帷子川	河道整備 護岸工、河床掘削工等 橋梁架け替え等	中堀川合流点～大貫橋	⑤
今井川	河道整備 護岸工、河床掘削工等 橋梁架け替え等	帷子川合流点～横浜新道	⑥
	長寿命化対策	今井川地下調節池	⑦
中堀川	河道整備 護岸工、河床掘削工等 橋梁架け替え	帷子川合流点～斉藤橋	⑧

(1) 河道整備

河川法第16条の3に基づく協議により横浜市が河川工事及び維持を施行する河川については、現行の整備を着実に進めるとともに、河川整備計画の対象期間に整備目標流量を計画高水位以下で安全に流下させるために、神奈川県と横浜市は協議を進め、現河道の拡幅や新規河道の開削、護岸整備、河床掘削等を行い、河道の断面を確保する。また、旧河道部については、親水空間や超過洪水時の貯留施設等としての活用を検討し、有効活用を図る。

(2) 橋梁架け替え等

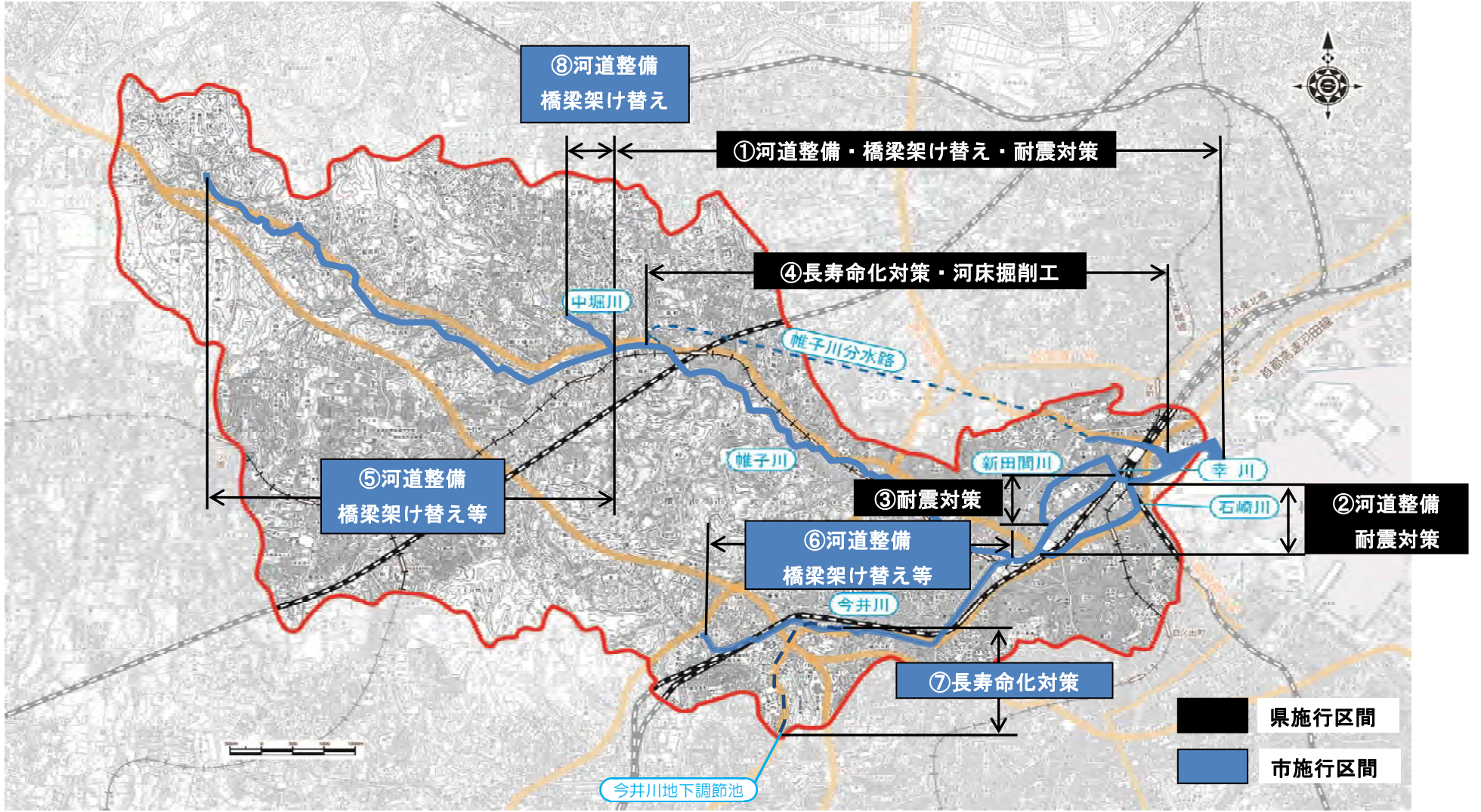
河道の拡幅や護岸整備等により、架け替えが必要となる橋梁の整備を実施する。また、新規河道の開削区間については、新たな河道に新設する橋梁の整備を実施する。

(3) 長寿命化対策

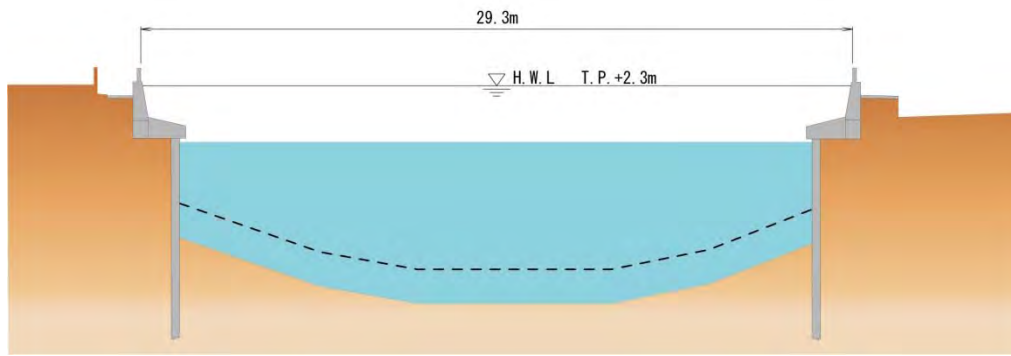
今井川地下調節池は平成16年に完成し、整備計画期間(概ね30年)において、建設から約40年を迎え、老朽化による機能低下が懸念されることから、「今井川地下調節池長寿命化計画」に基づき、施設の更新等適切な措置を講じる。

(4) その他

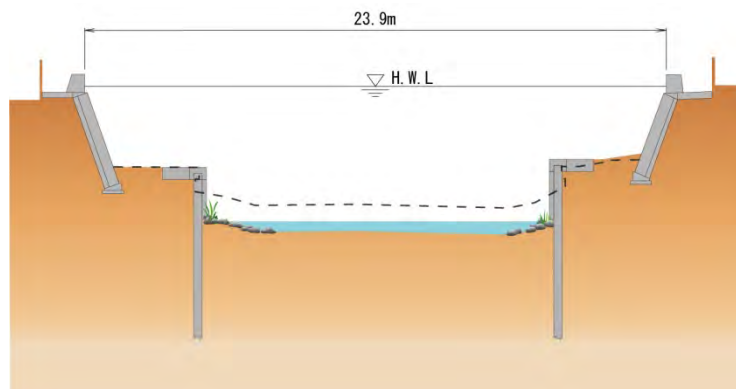
地震による被害の発生を防ぐため、必要に応じて河川管理施設の耐震対策を実施する。



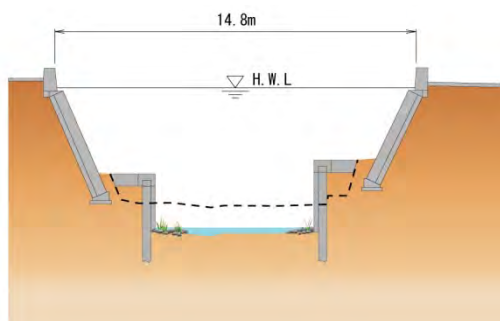
図一17 河川整備位置図



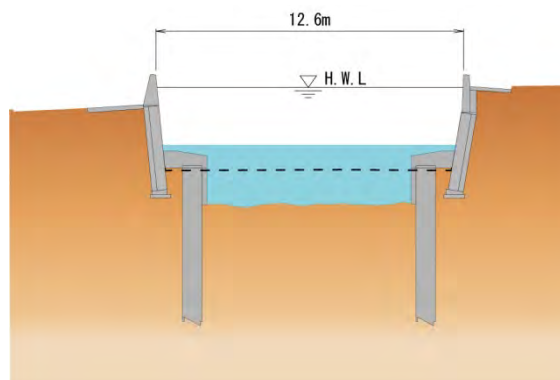
JR 東海道線橋梁下流付近（帷子川 0.9k）



横浜新道下流付近（帷子川 4.9k）



環状 2 号線下流付近（帷子川 6.9k）

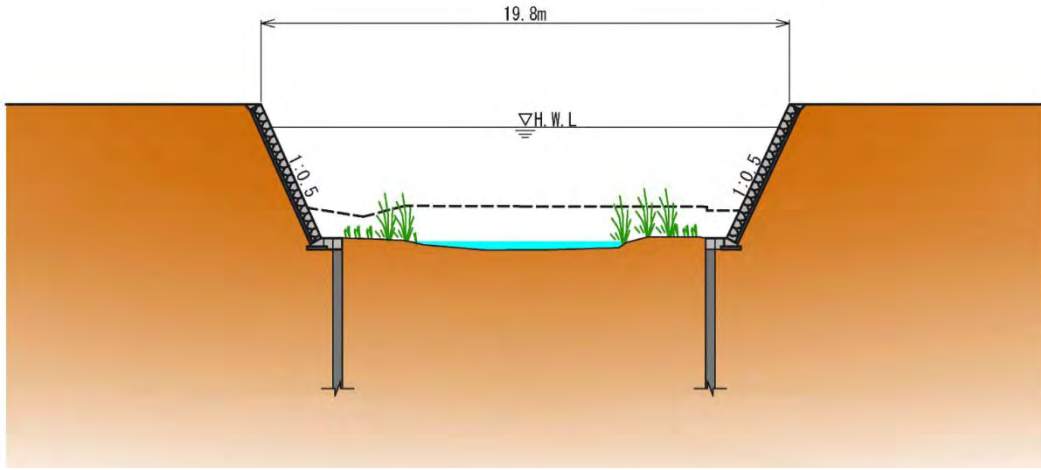


要橋上流付近（石崎川 1.4k）

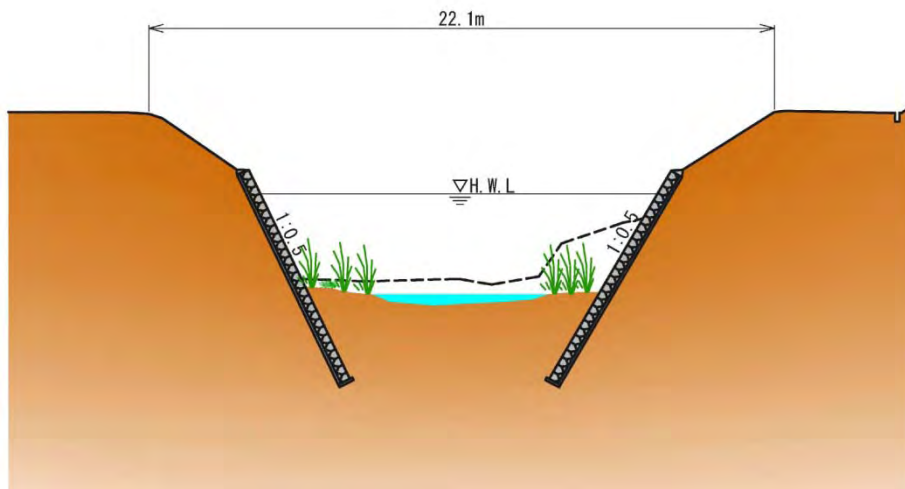
凡例

----- 現況河道

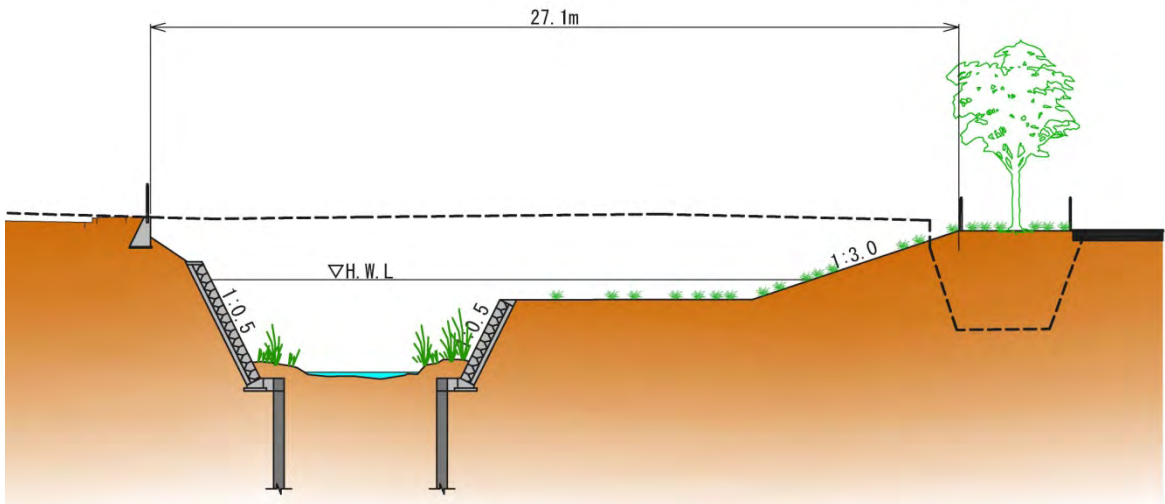
図-18 河川整備のイメージ（県施行区間）



白根橋上流付近（帷子川 9.6k）



高山橋上流付近（帷子川 11.3k）



上川井橋上流付近の親水拠点（帷子川 14.6k）

凡例

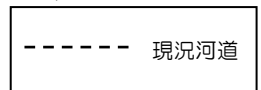
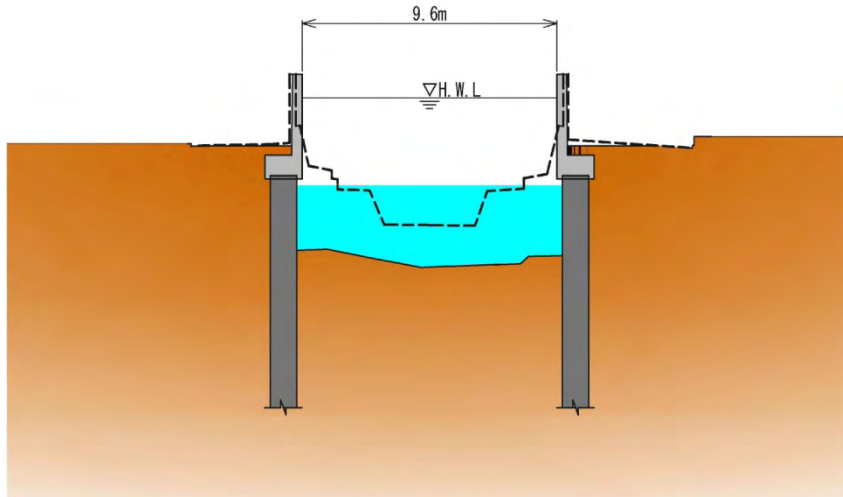
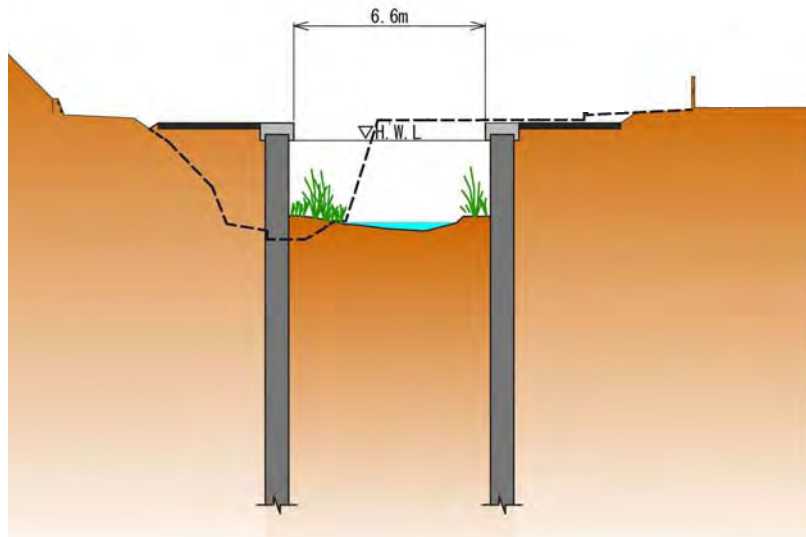


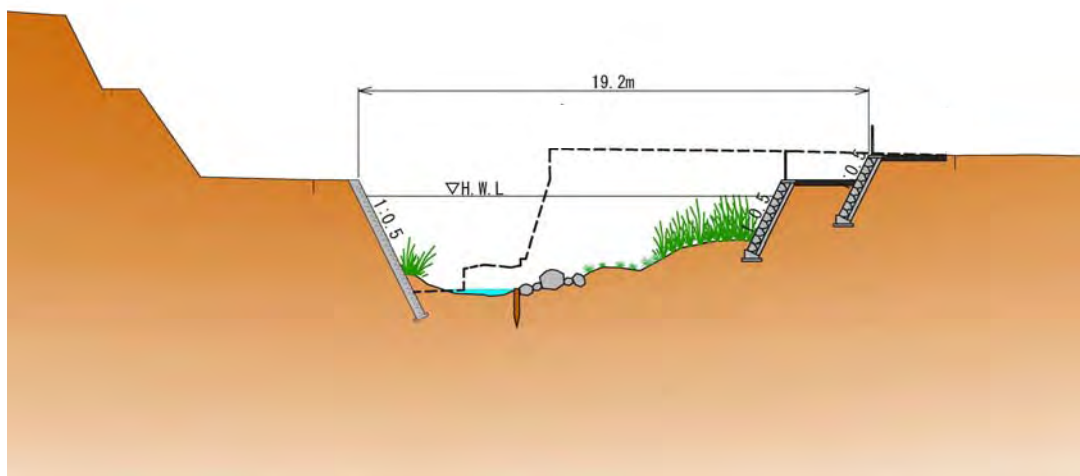
図-19 河川整備のイメージ（市施行区間）



逗子橋上流付近（今井川 0.4k）



横浜横須賀道路下流付近（今井川 3.4k）



不動橋下流付近の親水拠点（中堀川 0.3k）

凡例

----- 現況河道

図-20 河川整備のイメージ（市施行区間）

第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後も引き続き河川流況のデータ蓄積に努め、検討を進める。また、震災・火災時に非常・消火用水として河川水を利用するため、関係機関と連携を図り、取水必要箇所を検討し、取水可能な場を確保していく。

第3節 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関して、河川は身近な自然とふれあえる貴重な公共空間であり、人々に安らぎと潤いを与える場であるため、多自然川づくりとして、アユ等の通し回遊魚を対象に魚道整備を進めるなど河川環境の整備と保全に努める。

また、自然とふれあえる場としてだけではなく、環境学習や人々の交流の場としても利用できるよう、治水対策とともに、横浜市や地域の方々と連携を図り、自然環境や社会環境、景観や水質、親水などに配慮した人と自然にやさしい川づくりを進めていく。



帷子川用賀下橋下流の魚道整備



帷子川親水緑道の親水拠点整備

写真－3 環境整備実施箇所写真

第4節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止や河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等の観点から、河川管理施設等を良好な状況に保つよう、適切な河川の維持管理を実施する。

[河川巡視の実施]

計画的に河川を巡視し、護岸等の河川管理施設の保全状況、河道内の堆積土砂の状況、樹木の繁茂状況等を把握する他、河川管理者以外の者が設置・管理している工作物の維持管理状況、不法行為の監視などを行い、この結果を踏まえ、必要な維持管理対策を実施する。

[維持管理対策の実施]

1. 河川管理施設の維持管理

(1) 護岸

- ・ 護岸基礎部前面の深掘れや破損などの状況を把握し、必要に応じて根固工の設置や護岸の修繕を行う。
- ・ 老朽化した護岸については、早期に修繕を行う。

(2) その他の河川管理施設

- ・ 分水路トンネル等については、定期点検を行い、必要に応じ維持補修を行う。
- ・ 河床低下に対しては、河床を安定させ河川の縦断形状を維持するため、必要に応じて床止めを整備するなどの対策を行う。

2. 流下断面の確保

河床に堆積した土砂の除去や、河川内に繁茂した樹木の伐採等については、生物の生息、生育、繁殖環境の保全にも配慮し、必要に応じて行う。

3. 河川美化対策

不法投棄・散乱ごみ対策として、関係機関と連携し、パトロールや不法行為に対する警告看板の設置などを行う。

[河川の維持の施行区間]

河川の維持を行う区間は、帷子川水系の二級河川区間(法指定区間)である。

第5章 その他

第1節 地域と連携した河川管理

[河川防災情報の提供]

雨量、水位等の河川情報の収集を行い、ホームページを通じて、降雨や河川の水位に関する河川防災情報の提供を行う。また、河川防災情報は携帯電話のサイトも公開している。

河川親水施設においては、急な増水による水難事故防止のため、利用者が速やかに避難できるよう、大雨や洪水に関する注意報、警報が発表された際は、警報装置等による注意喚起を行う。

[地域防災力の向上]

洪水や津波による被害軽減に向け、流域住民の防災意識向上のため、関係機関と連携して流域住民に横浜市が行う防災訓練などへの参加を促すための取り組みを実施して行く。

[水質の向上]

水質改善対策としては、水量、水質の状況の把握に努めながら、人々の水辺の利用状況などに適した対策について、関係機関と連携し、必要に応じて検討していくとともに、流域住民の河川の水質に対する意識を高めるように努める。

[地域と連携した河川管理]

河川に関する情報を流域住民に幅広く提供・共有し、環境教育や川を軸とした地域づくり活動、地域で行われる河川美化活動の支援など、地域と連携した河川管理を推進する。

第2節 河川愛護等の普及・啓発、取組みへの支援

河川に関わる地域のイベントや学習活動などを通じて、河川愛護、美化に対する意識を高めるように努め、河川の美化活動などに取り組んでいる団体等の活動に、より一層協力、支援を行う。